

# River Clean in 多摩川

## 《報告書》

文責：北村知寛

### ■ ラフティング技術を要する川の流域での清掃活動

探検部ではラフティングの活動が盛んで、現在までに数々の大会に出場してきました。数々の川を航下してきた中で、川の上に浮かぶゴミ、歩いて行けないような場所に溜まったゴミなどをたくさん見てきました。ラフティングの練習を重ねていく中で、そんなゴミが目立ってしまっている川に対して自分達に出来ることはないかと考え、今回の活動を計画しました。街や山のゴミ拾いならやろうと思えば誰でも出来ます。しかし、川の流域においてはラフティングの技術がなければ出来ません。専用の道具、ラフティングの技術、それらを有している探検部なら川を綺麗にすることが出来ると考えました。

川に限らず自然環境を綺麗にしていくことは、現在の日本、世界においてとても重要なことです。今回の活動が探検部のみならず、活動を知ってくれた人々の“ゴミを捨ててはいけない”、“川を綺麗にしよう”という考えの“きっかけ”になってくれれば良いと思います。

### ■ 期間

2010年8月23日（月）～27日（金）

### ■ 場所

《1日目》 多摩川第3発電所（御嶽駅付近）～ 軍畑大橋下流 約3.5km

《2日目》 軍畑大橋下流 ～ 釜の淵公園（青梅駅付近） 約6.5km

《3日目》 奥多摩橋下流 ～ 釜の淵公園 ～ レクリエーション広場（河辺駅付近） 約9.5km

《4日目》 多摩川第3発電所 ～ 釜の淵公園 ～ レクリエーション広場 約14km

### ■ 会計 全日程参加者：¥9,000、途中参加者：一日につき¥1,500、合計：¥76,000

(内訳)	レンタカー代…¥48,000（ハイエースバン9人乗り）
	ガソリン代……¥5,000
	食費……………¥7,000
(合計)	¥60,000 ※レシート紛失のため百の位までは切り捨て
(残金)	¥16,000

※出発日は抜かして徴収。合宿欠席者が出たため軽邊・松岡・北崎から¥4,500 徴収

■ 奨励金 ※¥200,000

グモテックス社 コロラド…¥193,000 (送料込) 残金¥7,000 を隊費へ

■ 隊員

C L 北村知寛 国際学部国際学科 4 年  
 S L 山岸ひさの 政経学部経済学科 3 年  
 医療 内田達也 政経学部法律政治学科 2 年  
 装備 五味道晴 政経学部経済学科 2 年  
 田中幸之介 政経学部法律政治学科 1 年  
 宮本雅己 商学部経営学科 1 年  
 田島健一郎 政経学部法律政治学科 2 年  
 渡辺亮 商学部経営学科 1 年  
 隈本祐輔 商学部国際ビジネス学科 2 年  
 軽邊達也 商学部経営学科 3 年  
 松岡宏明 商学部経営学科 1 年  
 北崎祐一郎 国際学部国際学科 3 年

	8月23日(月)	24日(火)	25日(水)	26日(木)	27日(金)
北村					
山岸					
内田					
五味					
田中					
宮本					
田島					
渡辺					
隈本					
軽邊					
松岡					
北崎					

■ 在京連絡人

杉山知佐子 国際学部国際学科 3 年

ありがとうございました!!

■ 緊急連絡人

松永和久 拓殖大学八王子キャンパス学生主事室

## ■ 行動記録

### 8月23日(月)

- 19:30 高尾駅南口マクドナルド前集合
- 20:00 レンタカーの手続き完了、出発
  - ～21:30 部室から装備の搬出
- 22:00 ドン・キホーテにて買い出し
  - ～22:30
- 23:40 多摩川第3発電所前駐車場到着、就寝

### 8月24日(火) ドライバー：五味

- 06:00 起床・朝食
- 08:30 青梅市役所へボランティア袋を受け取りに行く
- 10:30 ～ 12:30 スカウティングのため多摩川第3発電所 ～ 軍畑大橋下流を降下
- 13:00 昼食
- 14:00 ～ 17:00 多摩川第3発電所 ～ 軍畑大橋下流を降下
  - ～ 17:30 分別作業
- 18:10 青梅市環境部ごみ対策課収集基地へゴミを置きに行く
- 18:20 お風呂(かんぼの宿)
- 19:45 夕食、隈本合流
- 23:00 軽邊合流
- 23:30 就寝

### 8月25日(水) ドライバー：北村

- 06:30 起床・朝食
- 09:00 軍畑大橋下流 ～ 釜の淵公園を降下開始
- 09:30 ～ 11:00 とある事情により一旦活動中止
  - ～ 13:30 釜の淵公園まで降下
- 14:00 ～ 16:30 釜の淵公園付近のゴミが多いポイントを清掃活動
  - ～ 17:00 分別作業
- 17:30 青梅市環境部ごみ対策課収集基地へゴミを置きに行く
- 18:30 お風呂(かんぼの宿)
- 20:30 夕食(ジョイフル)
- 23:00 就寝

**8月26日（木）** ドライバー：五味

06：30 起床・朝食

08：30 ～ 11：30 奥多摩橋下流 ～ 釜の淵公園を降下

12：00 昼食、松岡合流、一旦青梅市環境部ごみ対策課収集基地へゴミを置きに行く

13：00 ～ 16：00 釜の淵公園 ～ レクリエーション広場を降下

～ 16：30 分別作業

17：00 青梅市環境部ごみ対策課収集基地へゴミを置きに行く、北崎合流

18：00 お風呂（かんぽの宿）

19：30 夕食

22：30 就寝

**8月27日（金）** ドライバー：北村

06：30 起床・朝食

08：30 ～ 12：00 多摩川第3発電所 ～ 釜の淵公園を降下

～ 13：00 昼食

13：00 ～ 15：30 釜の淵公園 ～ レクリエーション広場を降下

～ 16：00 分別作業

17：00 青梅市環境部ごみ対策課収集基地へゴミを置きに行き活動終了の旨を伝える

18：00 部室到着

～ 19：00 装備の片付け

20：00 解散

■ **活動写真**

・ **多摩川第3発電所前駐車場（テン場）で朝食作り**



我ら探検部の多摩川におけるラフティングのベースキャンプ。就寝時のみテントを張らせてもらっている。1日目は経験者も少なかったため、午前中は下見がてらファンラフトを楽しんだ。ここから軍畑大橋下流まで1日目は清掃活動をした。上流部は急流なため、流されてしまっているのかゴミは少なかった気がする。



・川岸に放置されたゴミ袋



まとめられて放置されたゴミ袋を発見。中には空き缶やペットボトルなど、川遊びを楽しんだ際に出たゴミがたくさん入っていた。持って帰るのを忘れてしまったのだろうか。それとも…。なんにせよ、マナーを守らない人達が多いのが川におけるゴミ問題の象徴と言えそうだ。これはまだまだ序の口。

・これから分別を開始



流域においては青梅市役所から頂いたネットの袋で拾うことにした。ゴミを入れても水が抜けていってくれるので大変便利であった。最初は3枚しか頂かなかったため、後日頂きに行くことにした。分別の作業は燃える・燃えないゴミ、ビン・缶、その他に分けて分別をした。川ならではのゴミが目立つ結果になった。

・1日目終了！！



1日目は多摩川第3発電所から軍畑大橋下流までを清掃活動。上流部は急流のため慎重に降下を行った。しかし、予想以上にゴミを拾うことが出来た。様子見の1日目から予想を遥かに超えるゴミの現状を目の当たりにしてしまった。渡辺隊員とはこの日でお別れ。ゴム手袋の水を抜く姿が印象的でした（笑



・ 小さなエディ（流れのない所）にもゴミが漂着



2 日目は朝からドタバタしてしまっただが、気を取り直して中流部を降下開始。中流部では流れが緩やかなため、小さなエディにはキャンプをしていた人達のだと思われるゴミが多く漂着していた。艇にもゴミを載せられる量の限界があるので、このようなエディが多数ある場合には、往復して拾うしか方法がなかった。

・ スタート直後でゴミがたくさん…



スタート直後でゴミをたくさん拾うことが出来た。中にはスーパーの買い物かごもあった。明らかに近くのスーパーのものである…。車を回送中、川原に放置してあったスーパーのカートを見つけることもあった。これはスーパーに返すことが出来たが、あまりにも酷い現状である。どうにか出来ないものか…。

・ 2 日目最大の難関ポイント



かんぽの宿の下、釜の淵公園付近。最悪のエディが待ち構えていた。ここを拾いきる（正確には拾いきれていない）のに何度も艇を往復して拾うことにした。幸いにも往復しやすい場所だったので良かった。ここが川ゴミらしき No.1 のサンダルを拾えた場所 No.1 に輝いた。他にも釣り師の道具も多数拾えた。



・川ゴミらしき No.1、サンダルコレクション



これでも 2 日目に拾ったサンダルの 7 割程度。活動中にもキャンプしている人達が流す様を見てしまうのだから、これだけ拾ってしまうのも頷ける。片足しかないのが特徴的である。時々揃ってしまうサンダルもあった。流行りだからかクロックス系のサンダルをたくさん拾えた。流れやすいのも相まって…。

・ 2 日目終了！！



2 日目は実質午後だけでこれだけの量のゴミを拾う事が出来た。ほとんどが最後の難関ポイントで拾えたゴミである。釜の淵公園では若い人達がキャンプを楽しんでいて、ゴミを置いて帰ってしまうのではと内心ひやひやしてしまった。結果的に翌日には放置されたゴミを発見してしまうことに…。

・ゴミで車内が一杯



ゴミで車内が一杯になってしまい、一旦釜の淵公園の有料駐車場に隊員達を待機させて、ゴミを収集基地へと置いてくることにした。車内には異臭が立ち込める…。毎日、ゴミを拾って、分別して、収集基地へ持っていくというスタンスをとったので、スムーズに活動を進めることが出来た。



・ 青梅市環境部ごみ対策課収集基地



1 日目のゴミと合わせてこれだけの量を拾うことが出来た。収集基地の方にはこの場所に置いてもらえれば良いということにしてもらった。この時に収集基地の河本さん（通称）から飲み物を3本頂けた。とても美味しかった。所属団体や名前を聞かれたのでしっかりとアピールすることが出来た。

・ トムキャットタンデムとスーパーピューマ



・ スーパーピューマに山盛りのゴミ達



奥多摩橋下流から釜の淵公園までで、漕ぐスペースがなくなるほどにゴミが山盛りになってしまった。ちょうどお昼頃だったので分別を終え、昼食の休憩時間に一度収集基地へとゴミを持って行くことにした。収集基地の人から聞いたのだが、この時点で 190kg のゴミを拾ったらしい。なんともまあ…。



• これまた川ゴミならではのゴミ



これまた川ゴミならではのゴミではないだろうか。釣り師が流した or 捨てたであろう餌の入っていたプラケースと捕獲器？ これらも写真を撮ろうと思って集めただけの数に過ぎず、もっとたくさん拾うことが出来た。サンダルには劣るが、川ゴミの中でも目立っている部類に入るゴミである。

• レクリエーション広場付近の最終難関ポイント



ゴール付近になるとゴミの溜まったエディに出くわしてしまう…。往復はギリギリ可能なポイントだが、なかなか難しいポイントにゴミが溜まっていた。木々が多く拾いにくいし、今回の活動の醍醐味、ラフティングでしか行けない場所のゴミ溜まりであった。未開封の流された缶がたくさんあったりもした。

• レクリエーション広場で分別作業



今回の活動の最終ゴールポイントに指定したレクリエーション広場。多摩川第3発電所からここまでで約14kmを降下してきたことになる。当初の予定より距離は短くなったものの、やってみて分かったことは、それでも長くてとても大変だったということだ。こればかりはやってみた人にしか分からないことだと思う。

・ 3 日目飛ばして最終日終了！！



3 日目の集合写真を撮り忘れていたので 4 日目(最終日)の集合写真。最終難関ポイントまででたくさんのゴミを拾うことが出来た。4 日間で恐らく 250kg 程拾うことが出来たのではないだろうか。とりあえず、予算と疲労的な意味で当初の予定より早めに切り上げることにした。それでも成果は十分である。

・ 拓殖大学ありがとう！！ By.拓殖大学探検部一同



学生チャレンジ企画の奨励金で買うことの出来た艇、グモテックス社コロラド(チェコ産)。企画が通らなかったとしてもやろうとした活動ではあったが、企画が通ったことでより活動の幅を増やすことが出来た。学生チャレンジという企画を立ててくれて、本当に我が大学には感謝である。速くて軽くて丈夫な艇！！？

■ 4 日間で拾えたゴミ

燃えないゴミ…49 袋 ※ペットボトル含む

燃えるゴミ……8 袋 ※煙草の吸殻や紙パックなど

ビン・缶………7 袋

その他………折れたパドル、看板、ロールマット、バーベキュー用の網、消火器、椅子、ホイール、釣り竿、ビートバン、鍋、ポット、サーフボード、買い物かご、etc.



## ■ 総括

### 学4 北村知寛

僕自身がこの3年間と少しの間、ラフティングを続けてきて気になっていたことが川に漂流しているゴミである。川をラフティングの練習として降下する度に気になっていた。これが今回の企画に至った経緯である。学生チャレンジのポスターを見かけた時にピンときた。これだ、と――

元々ゴミ拾いが好きで（何かを集めることが基本的に好き）、いつかは探検部の活動としてゴミ拾いの活動を行ないたいと思っていたので、学生チャレンジという企画は奨励金も頂けるということで俄然やる気が出た。しかし、応募書類を作成し始めたのが締切日当日だったので半ば諦めていたのだが、トントン拍子とは今回みたいなことを言うのだろうか、当選してしまった。当選に至るまでの経緯としては、僕がラフティングの世界大会に出場するためにオランダへ遠征に行ってしまうので、選考会も表彰式も出席出来ないということで、それらは全て山岸隊員に託すことにした。入念な打ち合わせをすることは出来たが、結構な責任ある仕事を押し付けてしまったので申し訳ないと思っている。だからこそ、しっかりと計画書を託した。結果は見事当選。おめでとうとありがとうを言いたい。

北海道自転車ツーリングから帰ってきた翌日にはリバークリーンの活動が始まった。気を引き締めて活動に臨まなくてははいけないと思いつつも、ラフティング初心者が多いのと、経験者が少ないという事実で不安は拭いきれなかった。また、出発の当日に館清掃事業所には集積したゴミが置けないというのと、事前に八王子市役所から受け取っていたボランティア袋は多摩川では使えないという事態に陥り、活動初日に青梅市役所にゴミ袋を受け取りに行くというタイムロスになってしまった。しかし、こういった活動ではこういう手続きをしたり、挨拶回りをしたりするということを後輩達に直接見せることが出来たので結果オーライだと思っている。加えて、青梅市のゴミ収集基地にゴミを置けることになったので一石二鳥であった。

初日の1本目はラフティングと多摩川に慣れさせるためにファンラフトを敢行することにした。この1本のおかげで不安を拭い去ることが出来たし、スカウティングも兼ねていたのでゴミがある場所をチェックすることが出来た。午後は3時間程かけてゆっくりとゴミ拾いを行なった。上流部でもバーベキューをしている人達は多く、サンダルを流している人がいたりもした。川におけるゴミとしてはバーベキューのゴミも多いが、サンダルが特に気になった。とにかく多い。川で冷やして流れてしまった缶ビールやジュース、後始末が面倒で放置された網やゴミ袋などなど、予想を遥かに超えたゴミの現状を初日から目の当たりにしてしまった。悪い意味で幸先の良いスタートを切ってしまった…。初日の活動後には渡辺隊員が帰ってしまったが、夜に限本・軽邊両隊員が合流したので、2日目も問題なく降下することが出来る手筈となった。今回の活動は隊員の入れ替わりが激しかったが、それが功をそうしたのか活動しやすい人数を維持することが出来た。



2 日目はまさかのアクシデントに見舞われて活動が一時中断してしまったが、これも経験の内ということで隊員一同川の怖さを再認識することが出来た。油断は禁物、隊員達の胸にしかと刻み込まれたに違いない。長くゆったりとした中流部では、小さなエディにペットボトルやサンダルが漂着していたり、大きなエディにはたくさんのゴミが漂着していたり、いよいよゴミ拾いの醍醐味という感じがした。ただ、若干流れが速かったりするとエディに入れなかったりして、上手い具合にゴミが拾えないという場面も多々あった。川におけるゴミとしては当たり前のことだが浮くゴミが多い。だからペットボトルは大量にあるが、空き缶は水が入ってしまうので沈んでしまうのかあまりない印象を受けた。むしろ未開封の缶の方が浮いているので拾うことが多々あった。2 日目のゴールに指定していた釜の淵公園では多くの若者がバーベキューを楽しんでいた。以前に使用したであろう焚き火の周りには吸殻や花火の燃えかす、ゴミを燃やした後などが見受けられた。どんなに看板を設置してもこの現状だけにはならないのではないだろうか。バーベキューの後始末、これは川におけるゴミ問題の中核であるように思われる。3 日目のこの場所では大きなゴミ袋が分別もされずに異臭を立ち込めながら放置されていた。最悪である。

3 日目には2 日目と同じ区間に加え、最終ゴールに指定したレクリエーション広場までゴミ拾いを行なった。やはり毎日バーベキューを楽しむ人達は多い。僕達の行動を見て少しは綺麗にして帰ろうと思ってくれれば良いのだが、と思いつつ黙々とゴミを拾い続けた。途中ダッキーでまさかのフリップをしてしまい、松岡隊員のメガネをゴミにしてしまうという事態に…。申し訳ない。レクリエーション広場が近づいてきてドライバーの五味が見えたと思ったら、右岸のエディにたくさんのゴミが漂着している場所があった。その時に「あ、ごみだ。」と言った一言は2 つの意味を持つことになってしまった。

最終日の4 日目は多摩川第3 発電所からレクリエーション広場までの全区間を降下することにした。とは言っても、上流部は途中参加の隊員のためにファンラフトにした。それでも、釜の淵公園までとレクリエーション広場まででたくさんのゴミを拾うことが出来た。結果的に4 日間の活動となり、当初の予定よりも短くなってしまったものの十分な成果を残すことが出来たと思う。収集基地の方も川におけるゴミの現状には頭を抱えているらしく、今回の活動には非常に感謝してくれた。ラフティングでしか拾えないゴミを市で拾うとなると莫大なお金が必要になるし、かといってラフティングで行なうとなると技術がない。そういった現状の中で僕達の活動はとても素晴らしいことだとお褒めの言葉を頂けた。

活動を通して、川におけるゴミ問題の原因としてはバーベキューが大部分を占めると感じた。誰かがやってくれるだろうということで後始末をしない、これが一番の原因だ。看板を立てても効果はない（少なからずあるとは思いますが）だろうし、管理人となると人件費などが発生してしまう。こればかりは一人一人の意識次第なのである。対策としては、継続的に今回のような活動を続けていき、川を綺麗に保つことが大切である。ゴミが多いからこそ少しくらいなら大丈夫だろうという気持ちになってしまうからだ。そして、今回のような活動を知ってもらうことが大切である。参加した隊員全員かどうかは分からない

が、落ちているゴミに対して少なからず意識してくれるようになったように感じる。それは、今回の活動が“きっかけ”となっているので僕としては喜ばしいことである。川に限らず、ゴミ拾いの活動を今後も続けていってほしいと思う。また、多摩川の（多摩川に限らず）リバークリーン活動は毎年継続していてもらいたい。学生最後の年にリバークリーン活動が出来て本当に良かった。とても充実した4日間でした。隊員の皆、活動に参加してくれてありがとうございました！